

<p>6. 化学物質の濃度測定</p>	<p>(1.5.9)</p>	<p>次の室の室内濃度は別表 1-1, 2 により測定し、その結果を監督職員に提出する。 測定対象室及び測定箇所数()</p>
<p>7. 環境への配慮</p>		<p>化学物質を放散する建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の 1) から 5) を満たすものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド又はスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 3) 接着剤はフタル酸ジ-<i>n</i>-ブチル及びフタン酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 5) 1、3 及び 4 の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 <p>また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。</p> <p>ホルムアルデヒド放散量規制対象外に該当する建築材料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. J I S 及び J A S の F ☆☆☆☆ 品 2. 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 3. 下記表示のある J A S 適合 <ol style="list-style-type: none"> a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 <p>ホルムアルデヒド放散量第三種に該当する建築材料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. J I S 及び J A S の F ☆☆☆ 品 2. 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 3. 旧 J A S の E o 品 4. 旧 J A S の F c o 品
<p>8. 施工中の安全管理</p>		<p>接着剤及び塗料の塗布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し適切な乾燥時間をとるものとする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質等を室外に放出させる。</p>
<p>9. 特別な材料の工法</p>		<p>標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受けて、当該製品の工法によることができる。</p>
<p>10. 統括安全衛生責任者の指名</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働安全衛生法第 15 条に基づく指名を行う

11. 技能士	(1.5.2)	・適用する	・適用しない			
		工事種別	適用種別	工事種別	適用種別	
		鉄筋	・鉄筋施工(鉄筋組立て作業)	ALCパネル	・ALCパネル施工	
		コンクリート	・型枠施工	木	・建築大工	
			・コンクリート圧送施工	左官	・左官	
		鉄骨	・とび	金属	・内装仕上げ施工 (鋼製下地工事作業)	
		防水	・防水施工 (・アスファルト防水・ウレタンゴム系塗膜防水・合成ゴム系シート防水・アクリルゴム系塗膜防水・シーリング防水・塩化ビニル系シート防水)の各工事作業		塗装	・建築塗装作業
			ブロック	・ブロック建築	建具	・サッシ施工 ・ガラス施工 ・自動ドア施工
				石		・石材施工(石張り作業)
		タイル	・タイル張り	内装		・内装仕上げ施工(・カーペット系床・プラスチック系床・ボード)の各仕上げ工事作業 ・表装(壁装作業)
屋根及び とい	・建築板金(内外装板金作業) ・かわらぶき	植栽	・造園			
12. 設備工事との取り合い		施工範囲は	・ 工事区分表による ・ 図示による (・ 仕上表 ・)			
13. 完成時の提出図書	(1.7.1)	完成図	※ 作成する	・ 作成しない		
		保全に関する資料	※ 作成する	・ 作成しない		
	(1.7.2)	完成図の作成方法	※ 設計図(発注図)を修正する ・ 既存現況図を修正する			
		(完成図はCADデータ又は第2原図を修正して作成する。)				
		原図(完成図)	・ 提出する(1部)	※ 提出しない (原図(完成図)はトレーシングペーパーで提出する。)		
		複写図	・ 提出する(部)	※ 提出しない		
	(1.7.3)	保全に関する資料				
		・ 建築物等の保守に関する説明書	・ 各種取扱説明書			
		※ 主要な材料・機器一覧表(材料名、メーカー名、施工業者名、色番号を記入した仕上表等)				
		その他提出図書				
		・ 鍵リスト及び平面図	・ 保証書			
		背中合せ黒表紙金文字製本(A4判:2部)	※ 作成する	・ 作成しない (対象書類は、仕様書、特記仕様書、図面一式(A3縮小版)、その他上記の提出書類で監督員と協議したものとする。また、電子納品を行った場合は、成果品(CD-Rを原則とする)2部のうち1部を同封すること。)		
14. 電子納品		・ 本工事は、電子納品対象工事とする。				
		※ 本工事は、電子納品を行わない。 (電子納品とは、調査、設計、工事などの各業務段階の成果品を電子データで納品することをいう。ここでいう電子データとは、「広島市電子納品の手引」(以下「要領等」という。)に基づいて作成したものを指す。)				
		本工事は、設計図(発注図)CADデータを				
		※ 貸与する	・ 貸与しない			
		(貸与したCADデータは当該工事の施工図または完成図の作成以外の目的に使用してはならない。)				
		工事の着手前に必ず監督員と電子納品について事前協議を行うこと。				
		成果品は、「要領等」に基づいて作成した電子データを電子媒体(CD-Rを原則とする)で2部提出する。				
		電子媒体提出の際には、エラーがないことを確認した後、ウィルス対策ソフトによるチェックを実施したうえで提出すること。				

3章 土工事				
1. 埋戻し及び盛土の種別	(3.2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ A種 ※ B種 (根切り土の中の良質土) ・ C種 (他現場の建設発生土の中の良質土) 「広島市建設発生土取扱要領」及び「広島市建設発生土利用基準」を遵守すること。 ・ D種 (再生コンクリート砂) ・ 建設汚泥から再生した処理土 		
2. 建設発生土の処理	(3.2.5)	※ 指定処分 (条件明示による)		
3. 山留めの撤去	(3.3.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ する ・ しない (存置する) 		
4章 地業工事				
1. 試験杭	(4.2.2)	位置 図示による 本数 本		
2. 既製コンクリート杭地業	(4.3.2)	種	<ul style="list-style-type: none"> ・ PHC杭 ・ ・ 	
		品 質	<ul style="list-style-type: none"> ・ A種 ・ B種 ・ C種 	
		継 手	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし ・ あり (ヶ所) 	
		先端部形状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉そく平坦 ・ 閉そくペンシル形 ・ 開放平坦 	
		先端部補強	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし ・ あり 	
		杭 頭 処 理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行わない ・ 行う () 	
		(4.3.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ セメントミルク工法 	
3. 場所打ちコンクリート杭地業	(4.5.1~4)	支 持 地 盤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による ・ 	
		オ ー ガ ー 種 別	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湿式アースオーガー ・ 	
		プレボーリング掘削深さ	GL - m	
		杭の打止め処理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圧入 ・ ドロップハンマーによる軽打 	
		(4.3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 特定埋込杭工法 ・ 建築基準法に基づく埋込杭工法 または 認定埋込杭工法 	
4. 杭発生土の処理	(4.6.3)	掘 削 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 	
		コンクリートの強度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 21N/mm² ・ <small>構造体コンクリート強度と供試体の強度差を考慮した割増 ※ 3 N/mm² N/mm²</small>	
		コンクリートの種別	<ul style="list-style-type: none"> ・ A種 ・ B種 	
		孔壁測定装置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適用する ・ 適用しない 	
5. 砂利及び砂地業	(4.6.3)	種 類	厚 さ (mm)	施 工 場 所
		※ 再生クワッシュン RC-40	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60 ◎ 100 	基礎、床
		・ 再生砂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	
6. 床下防湿層	(4.6.5)	◎ ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm以上 重ね合わせ及び基礎梁際ののみ込み 縦横共 250mm 施工範囲 ※ 図示による		

5 章 鉄筋工事

1. 鉄筋	(5.2.1)	※ 異形鉄筋	
		種類の記号	径
		※ S D295A	D10、D13
		・ S D345	D19以上
		・	
2. 溶接金網	(5.2.2)	網目の形状、寸法及び径 (mm)	
		・ 100×100×6	・
3. 継手	(5.3.4)	柱及び梁の主筋	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガス圧接継手 (D19以上) ⊙ 重ね継手 ・ 機械式継手又は溶接継手
4. 耐久性上不利な箇所等の鉄筋のかぶり厚さ	(5.3.5) (6.8.1)	・ 外部に面する打放し仕上げ部分	60 mm (40+増打厚さ20)
		・	
5. 各部配筋	(5.3.7)	⊙図示による	
		・ 標準仕様書参考図による	
6. 圧接完了後の圧接部の試験	(5.4.10)	抜取試験 ・ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 試験機関は第三者機関とし、監督職員の承諾を得ること。	

6章 コンクリート工事

1. コンクリートの種類及び強度	(6.2.1 ~2)	<p>※ 普通コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">設計基準強度 (Fc) (N/mm²)</th> <th style="width: 15%;">気乾単位 容積質量</th> <th style="width: 15%;">スランプ (cm)</th> <th colspan="2" style="width: 55%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">◎ 18</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">2.3t/m³ 程度</td> <td style="text-align: center;">◎ 15</td> <td colspan="2">捨てコン</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・ 18</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・ 15</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・ 18</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◎ 24</td> <td rowspan="2"></td> <td style="text-align: center;">◎ 15</td> <td colspan="2">基礎、床</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・ 18</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>				設計基準強度 (Fc) (N/mm ²)	気乾単位 容積質量	スランプ (cm)	適用箇所		◎ 18	2.3t/m ³ 程度	◎ 15	捨てコン		・ 18			・ 15			・ 18			◎ 24		◎ 15	基礎、床		・ 18		
	設計基準強度 (Fc) (N/mm ²)	気乾単位 容積質量	スランプ (cm)	適用箇所																												
◎ 18	2.3t/m ³ 程度	◎ 15	捨てコン																													
		・ 18																														
・ 15																																
・ 18																																
◎ 24		◎ 15	基礎、床																													
・ 18																																
	(6.10.1)	<p>・ 軽量コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">設計基準強度 (Fc) (N/mm²)</th> <th style="width: 15%;">気乾単位 容積質量</th> <th style="width: 10%;">種別</th> <th style="width: 15%;">スランプ (cm)</th> <th colspan="2" style="width: 45%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">・ 18</td> <td style="text-align: center;">1.4~ 2.1t/m³</td> <td style="text-align: center;">1種</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・ 21</td> <td style="text-align: center;">1.4~ 2.1t/m³</td> <td style="text-align: center;">1種</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>				設計基準強度 (Fc) (N/mm ²)	気乾単位 容積質量	種別	スランプ (cm)	適用箇所		・ 18	1.4~ 2.1t/m ³	1種				・ 21	1.4~ 2.1t/m ³	1種												
設計基準強度 (Fc) (N/mm ²)	気乾単位 容積質量	種別	スランプ (cm)	適用箇所																												
・ 18	1.4~ 2.1t/m ³	1種																														
・ 21	1.4~ 2.1t/m ³	1種																														
2. 構造体コンクリートの仕上り	(6.2.5)	<p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">種別</th> <th colspan="3">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">・ A種</td> <td style="text-align: center;">・ 図示</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・ B種</td> <td style="text-align: center;">・ 図示</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・ C種</td> <td style="text-align: center;">・ 図示</td> <td colspan="2">※ 基礎</td> </tr> </tbody> </table>				種別	適用箇所			・ A種	・ 図示			・ B種	・ 図示			・ C種	・ 図示	※ 基礎												
種別	適用箇所																															
・ A種	・ 図示																															
・ B種	・ 図示																															
・ C種	・ 図示	※ 基礎																														
3. コンクリートの材料	(6.3.1)	<p>※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種 又はフライアッシュセメントA種</p> <p>・ 高炉セメントB種 適用箇所 ()</p> <p>アルカリシリカ反応性による区分</p> <p>※ 適用する (Aとする)</p> <p>・ 適用しない (対策:)</p> <p>混和剤 ※ スランプ 15 の場合 … AE減水剤 ※ スランプ 18 の場合 … 高性能AE減水剤</p>																														
4. 塩化物量及びアルカリ総量	(6.5.4)	<p>アルカリ総量</p> <p>※ 適用する (3.0kg/m³以下とする)</p> <p>・ 適用しない</p>																														
5. 単位水量の測定	(6.8.2)	<p>※ 行わない ・ 行う ()</p>																														
6. 型枠のせき板	(6.8.2)	<p>※ コンクリート型枠用合板 (厚さ 12mm)</p> <p>・ 床型枠用鋼製デッキプレート (建設技術評価「鉄筋コンクリート造建築物等における床型枠用鋼製デッキプレートの開発」において評価を取得したもの、または評価名簿による)</p> <p>・ 特殊樹脂型枠</p> <p>・ 断熱材兼用型枠 (建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において評価を取得したもの) 25mm以下かつ熱抵抗値 1m²・K/℃以上</p> <p>・ MCR工法用シート (仕様はシート製造所若しくは販売店の仕様による)</p> <p>・ メッシュ型枠</p>																														
7. 無筋コンクリート	(6.14.1)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">設計基準強度 (Fc) (N/mm²)</th> <th style="width: 15%;">気乾単位 容積質量</th> <th style="width: 15%;">スランプ (cm)</th> <th colspan="2" style="width: 55%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">18</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">2.3t/m³ 程度</td> <td style="text-align: center;">・ 15</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="text-align: center;">・ 18</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>				設計基準強度 (Fc) (N/mm ²)	気乾単位 容積質量	スランプ (cm)	適用箇所		18	2.3t/m ³ 程度	・ 15			・	・ 18															
設計基準強度 (Fc) (N/mm ²)	気乾単位 容積質量	スランプ (cm)	適用箇所																													
18	2.3t/m ³ 程度	・ 15																														
・		・ 18																														

<p>8. コンクリートの強度試験</p>		<p>※ コンクリートの強度試験については、工事全体でコンクリート総量が50 m³以上の場合は第三者機関で行い、50 m³未満の場合は生コン会社の試験でもよいこととする。(型枠存置用は、生コン会社の試験でもよい。) なお、生コン会社の試験の場合は、原則として現場代理人等が立会すること。 生コン会社の試験でよい部位 () ・ 行わない</p>
-----------------------	--	---

7 章 鉄骨工事

<p>1. 鉄骨製作工場</p>	<p>(7.1.3)</p>	<p>加工能力等の指定 ・ する() ・ しない</p>													
<p>2. 施工管理技術者</p>	<p>(7.1.4)</p>	<p>・ 適用する ・ 適用しない</p>													
<p>3. 鋼材の種別</p>	<p>(7.2.1)</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">種類の記号</th> <th style="text-align: center;">施 工 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ S N400A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ S N400B, S N490B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ S N400C, S N490C</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	施 工 箇 所	・ S N400A		・ S N400B, S N490B		・ S N400C, S N490C						
種類の記号	施 工 箇 所														
・ S N400A															
・ S N400B, S N490B															
・ S N400C, S N490C															
<p>4. 高力ボルト</p>	<p>(7.2.2)</p>	<p>・ トルシア型(JSS II 09 による認定品) ・ JIS 型(2種(F10T)) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト(1種(F8T相当)) ・ その他(建築基準法に基づく認定を受けた高力ボルト)</p>													
<p>5. アンカーボルト</p>	<p>(7.2.4)</p>	<p>材質 構造用アンカー ・ JIS G 1220 (構造用両ねじアンカーボルトセット) 建方用アンカー ・ JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) ※図示による</p>													
<p>6. デッキプレート</p>	<p>(7.2.7)</p>	<p>材質・形状・寸法は図示による。 耐火時間の要求 ・ あり ・ なし ・ 構造床用 ・ 合成スラブ用</p>													
<p>7. 柱底均しモルタル</p>	<p>(7.2.9) (7.10.3)</p>	<p>材料 ・ 無収縮モルタル(工法:A種) ・ モルタル ・ 図示による</p>													
<p>8. アンカーボルト等の設置</p>	<p>(7.10.3)</p>	<p>工法 ・ A種 ※ B種</p>													
<p>9. 溶接技能者</p>	<p>(7.6.3)</p>	<p>技量付加試験を ・ 行う ・ 行わない</p>													
<p>10. 溶接部の試験</p>	<p>(7.6.12)</p>	<p>超音波探傷試験を ・ 行う ・ 行わない 試験機関は公正な第三者機関とし、監督職員の承諾を得ること。</p>													
<p>11. 耐火被覆材接着面の錆止め塗装</p>	<p>(7.8.2)</p>	<p>・ 塗装する(種別:)</p>													
<p>12. 耐火被覆材の種別及び性能</p>	<p>(7.9.2)</p>	<p>耐火被覆材 ※ 耐火材吹付け (・ 乾式 ・ 半乾式 ・ 湿式) ・ 耐火板張り ・ 耐火材巻付け ・ ラス張りモルタル塗り</p> <p>※ ガレージメーカー仕様による</p>													

8 章 屋根及びとい工事

1. 長尺金属板葺

(13.2.2)

材料

規 格 番 号	規 格 名 称
<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS G 3322 	塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めつき鋼板及び鋼帯 (・ 片面 ・ 両面)
<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS G 3312 	塗装溶融亜鉛めつき鋼板及び鋼帯 (・ 片面 ・ 両面)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造所の規格による 	被覆鋼板 (ふっ素樹脂被覆鋼板又は耐酸被覆鋼板)
<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS G 3320 	塗装ステンレス鋼板
<ul style="list-style-type: none"> ・ 	

鋼板の記号及び厚さ (mm)

記号	()
一般部の厚さ	・	0.3 ・ 0.35 ・ 0.4 ・ 0.5 ・	
役物部の厚さ	・	0.4 ・ 0.5 ・ 0.6 ・	

(13.2.3)

形式 ・ 横葺 ・ 瓦棒葺 ・ 平葺 ・
 瓦棒葺きの場合 ・ @420 程度 ・

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

- ・ 図示による

2. 折板葺	(13.3.2)	材料			
		規格番号	規格名称		
		・ JIS G 3322	塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めつき鋼板及び鋼帯 (・ 片面 ・ 両面)		
		・ JIS G 3312	塗装溶融亜鉛めつき鋼板及び鋼帯 (・ 片面 ・ 両面)		
		・ 製造所の規格による	被覆鋼板 (ふっ素樹脂被覆鋼板又は耐酸被覆鋼板)		
		・ JIS G 3320	塗装ステンレス鋼板		
3. 粘土瓦葺	(13.3.3)	種類 形式 ・ 重ね形 ・ はぜ締め形 ・ 山 高 mm 山のピッチ mm 厚さ mm 耐 力 ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 ・ 4種 ・ 5種 役物部 厚さ mm 軒先面戸板 ・ 有 ・ 無 断熱材張り ・ 図示による ※ ガレージメーカー仕様による			
		(13.3.3) 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示による			
		4. とい	(13.5.2)	材料	
				・ J型の53A ・ ・ 種類、大きさ、産地等 () 役物瓦の種類 ・ 図示による 雪止め瓦の使用 ・ する ・ しない	
				(13.4.3) 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示による ・ 栈木の留付け ()	
				部位	材 種 (規格)
たてとい	・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6741) ・ 硬質塩化ビニル雨どい (JIS K 5706) ・ 配管用鋼管 (JIS G 3452) ・				
のきどい	・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6741) ・ 硬質塩化ビニル雨どい (JIS K 5706) ・ 配管用鋼管 (JIS G 3452) ・				
5. たてといのシーリングプレート	(13.5.2)	防露材 (ロックウール保温筒) のホルムアルデヒドの放散量 ・ F☆☆☆☆ ・ 第三種 ※ ガレージメーカー仕様による ・ 図示による			

9章 建具工事

1. 防火戸	(16.1.3)	防火戸の指定及びその自動閉鎖機構及び煙感知器等との連動は、図示による。															
2. 見本の製作等	(16.1.4)	建具見本の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・ する ※ しない 仮組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行う ※ 行わない 															
	(16.1.6)	開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」の適用は、図示による。															
3. アルミニウム製建具	(16.2.2)	建具の性能等級等															
	(16.2.4)	コンクリート系下地及び鉄骨下地															
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">性能項目</th> <th style="width: 35%;">等</th> <th style="width: 35%;">級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>・ S-4</td> <td>・ S-5 ・ S-6</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>・ A-3</td> <td>・ A-4</td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>・ W-4</td> <td>・ W-5</td> </tr> <tr> <td>表面処理</td> <td colspan="2">金属工事 2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理による。</td> </tr> </tbody> </table>	性能項目	等	級	耐風圧性	・ S-4	・ S-5 ・ S-6	気密性	・ A-3	・ A-4	水密性	・ W-4	・ W-5	表面処理	金属工事 2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理による。	
性能項目	等	級															
耐風圧性	・ S-4	・ S-5 ・ S-6															
気密性	・ A-3	・ A-4															
水密性	・ W-4	・ W-5															
表面処理	金属工事 2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理による。																
		木下地															
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">性能項目</th> <th style="width: 35%;">等</th> <th style="width: 35%;">級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>・ S-2</td> <td>・ S-3</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>・ A-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>・ W-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>表面処理</td> <td colspan="2">金属工事 2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理による。</td> </tr> </tbody> </table>	性能項目	等	級	耐風圧性	・ S-2	・ S-3	気密性	・ A-3		水密性	・ W-3		表面処理	金属工事 2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理による。	
性能項目	等	級															
耐風圧性	・ S-2	・ S-3															
気密性	・ A-3																
水密性	・ W-3																
表面処理	金属工事 2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理による。																
		防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級															
		<ul style="list-style-type: none"> ・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 															
		断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級															
		<ul style="list-style-type: none"> ・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 															
		耐震ドアセットの面内変形追随性の等級															
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 															
		※ ガレージメーカー仕様による															
	(16.2.3)	網戸の防虫網															
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製 															
		取りはずし方式															
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 内外障子共完全内はずし式 (出入口は除く) ・ 外部建具 () ・ 内部建具 () 															
		※ ガレージメーカー仕様による															

4. 樹脂製建具	(16.3.2)	<p>建具の性能等級等</p> <p>コンクリート下地系及び鉄骨下地</p> <table border="1" data-bbox="580 255 1458 427"> <thead> <tr> <th>性能項目</th> <th>等</th> <th>級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>・ S-4</td> <td>・ S-5 ・ S-6</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>・ A-4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>・ W-4</td> <td>・ W-5</td> </tr> </tbody> </table> <p>木下地</p> <table border="1" data-bbox="596 508 1458 680"> <thead> <tr> <th>性能項目</th> <th>等</th> <th>級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>・ S-2</td> <td>・ S-3</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>・ A-4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>・ W-3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	性能項目	等	級	耐風圧性	・ S-4	・ S-5 ・ S-6	気密性	・ A-4		水密性	・ W-4	・ W-5	性能項目	等	級	耐風圧性	・ S-2	・ S-3	気密性	・ A-4		水密性	・ W-3	
性能項目	等	級																								
耐風圧性	・ S-4	・ S-5 ・ S-6																								
気密性	・ A-4																									
水密性	・ W-4	・ W-5																								
性能項目	等	級																								
耐風圧性	・ S-2	・ S-3																								
気密性	・ A-4																									
水密性	・ W-3																									
5. 鋼製建具	(16.4.2)	<p>防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T-1 ・ T-2 <p>断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H-4 ・ H-5 ・ H-6 <p>簡易気密型ドアセット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適用する ・ 適用しない <p>防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 <p>断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 <p>耐震ドアセットの面内変形追随性の等級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>開口補強</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 扉のラッチ受座用切込開口補強 ・ 枠の解錠機構用切込開口補強 																								
6. 鋼製軽量建具	(16.5.2)	<p>簡易気密型ドアセット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適用する ・ 適用しない 																								
7. ステンレス製建具	(16.5.3)	<p>材質 (学校用間仕切り建具を除く)</p> <table border="1" data-bbox="580 1391 1458 1599"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>材 質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>く つ ず り</td> <td>・ ステンレス鋼板 1.5mm</td> </tr> <tr> <td>召 合 わ せ、 縦小口包み板等</td> <td>・ 鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム合金</td> </tr> <tr> <td>表 面 板</td> <td>・ カラー鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ 鋼板</td> </tr> </tbody> </table> <p>防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 <p>断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 <p>耐震ドアセットの面内変形追随性の等級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>表面仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HL仕上げ <p>曲げ加工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ 	区 分	材 質	く つ ず り	・ ステンレス鋼板 1.5mm	召 合 わ せ、 縦小口包み板等	・ 鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム合金	表 面 板	・ カラー鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ 鋼板																
区 分	材 質																									
く つ ず り	・ ステンレス鋼板 1.5mm																									
召 合 わ せ、 縦小口包み板等	・ 鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム合金																									
表 面 板	・ カラー鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ 鋼板																									
8. 木製建具	(16.7.2)	<p>建物内部の木製建具に使用する表面材及びホルムアルデヒド水溶液を用いた建具用でん粉系接着剤のホルムアルデヒドの放散量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ F☆☆☆☆ ・ 第三種 																								

<p>9. 建具用金物</p>	<p>(16.8.2)</p> <p>(16.8.4)</p>	<p>主要な金物は、見本品により監督職員の承諾を受ける。 欄間等の軽微な箇所は、合成樹脂製としてよい。</p> <p>マスターキー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製作する (本) ※ 製作しない ・ 既存のマスターキーに合わせる <p>グラントマスターキー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製作する (本、 系統) ※ 製作しない <p>鍵箱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設ける (個用) ※ 設けない 										
<p>10. 自動ドア開閉装置</p>	<p>(16.9.3)</p>	<p>引き戸用検出装置</p> <table border="1" data-bbox="564 584 1474 703"> <tr> <td data-bbox="564 584 762 703">種類</td> <td data-bbox="762 584 1474 703"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 光線(反射) ・ 熱線 ・ 音波 ・ 光電 ・ 電波 ・ タッチ ・ 押しボタン ・ 多機能トイレ </td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="564 703 1474 779"> <tr> <td data-bbox="564 703 762 779">取付位置</td> <td data-bbox="762 703 1474 779"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 床面 ・ 天井面 ・ 壁面 ・ 無目 </td> </tr> </table>	種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光線(反射) ・ 熱線 ・ 音波 ・ 光電 ・ 電波 ・ タッチ ・ 押しボタン ・ 多機能トイレ 	取付位置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床面 ・ 天井面 ・ 壁面 ・ 無目 						
種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光線(反射) ・ 熱線 ・ 音波 ・ 光電 ・ 電波 ・ タッチ ・ 押しボタン ・ 多機能トイレ 											
取付位置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床面 ・ 天井面 ・ 壁面 ・ 無目 											
<p>11. 重量シャッター</p>	<p>(16.11.2)</p>	<p>連動制御盤及び煙感知器は、別途工事とする。</p> <p>用途による種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター <p>耐風圧強度 一般 () N/m² 外壁用 () N/m²</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋内用防火シャッター ・ 屋内用防煙シャッター <p>シャッターケース (防火・防煙以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設ける ・ 設けない 										
<p>12. 軽量シャッター</p>	<p>(16.12.2)</p> <p>(16.12.3)</p>	<p>耐風圧強度 () N/m²</p> <p>シャッターケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設ける ・ 設けない <p>材質</p> <table border="1" data-bbox="564 1330 1474 1621"> <thead> <tr> <th data-bbox="564 1330 836 1375">名 称</th> <th data-bbox="836 1330 1474 1375">材 質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="564 1375 836 1453">ス ラ ッ ト</td> <td data-bbox="836 1375 1474 1453"> <ul style="list-style-type: none"> ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金鋼板及び鋼帯) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="564 1453 836 1532">ガイドレール (中柱は除く)</td> <td data-bbox="836 1453 1474 1532">ステンレス鋼板 厚さ 1.5mm</td> </tr> <tr> <td data-bbox="564 1532 836 1576">中 柱</td> <td data-bbox="836 1532 1474 1576">鋼板(内法高さ 2.5m以上の場合は補強型とする)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="564 1576 836 1621">座板 (外部)</td> <td data-bbox="836 1576 1474 1621">ステンレス形鋼 2 L - 3 × 30 × 30</td> </tr> </tbody> </table>	名 称	材 質	ス ラ ッ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金鋼板及び鋼帯) 	ガイドレール (中柱は除く)	ステンレス鋼板 厚さ 1.5mm	中 柱	鋼板(内法高さ 2.5m以上の場合は補強型とする)	座板 (外部)	ステンレス形鋼 2 L - 3 × 30 × 30
名 称	材 質											
ス ラ ッ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金鋼板及び鋼帯) 											
ガイドレール (中柱は除く)	ステンレス鋼板 厚さ 1.5mm											
中 柱	鋼板(内法高さ 2.5m以上の場合は補強型とする)											
座板 (外部)	ステンレス形鋼 2 L - 3 × 30 × 30											
	<p>(16.12.4)</p>	<p>スラットの形状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 										
	<p>(16.12.2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上部電動式 (手動併用) ※ 手動式 <p>※ ガレージメーカー仕様による</p>										

13. オーバーヘッド ドア	(16. 13. 2)	形式及び機構										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>区 分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セクション材料</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ </td> </tr> <tr> <td>開 閉 方 式</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式 </td> </tr> <tr> <td>収 納 形 式</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形 </td> </tr> <tr> <td>耐 風 圧 性 能</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 500pa ・ 750pa ・ 1000pa ・ 1250pa ・ 1700pa </td> </tr> </tbody> </table>	種 類	区 分	セクション材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ 	開 閉 方 式	<ul style="list-style-type: none"> ・ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式 	収 納 形 式	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形 	耐 風 圧 性 能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 500pa ・ 750pa ・ 1000pa ・ 1250pa ・ 1700pa
		種 類	区 分									
		セクション材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ 									
		開 閉 方 式	<ul style="list-style-type: none"> ・ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式 									
		収 納 形 式	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形 									
耐 風 圧 性 能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 500pa ・ 750pa ・ 1000pa ・ 1250pa ・ 1700pa 											
14. ガラス	(16. 14. 2)	ガラス留め材の種別										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>建具の種類</th> <th>種 別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガスケット ・ シーリング材 </td> </tr> <tr> <td>鋼 製</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材 </td> </tr> <tr> <td>ステンレス製</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材 </td> </tr> <tr> <td>木 製</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材 </td> </tr> </tbody> </table>	建具の種類	種 別	アルミニウム製	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガスケット ・ シーリング材 	鋼 製	<ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材 	ステンレス製	<ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材 	木 製	<ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材
		建具の種類	種 別									
		アルミニウム製	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガスケット ・ シーリング材 									
		鋼 製	<ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材 									
		ステンレス製	<ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材 									
木 製	<ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング材 											
防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による。												
※ ガレージメーカー仕様による												
15. ガラスブロック 積み	(16. 14. 5)	建築基準法に基づく風圧力に対応した工法										
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による 										
16. 付属電気設備	(16. 14. 5)	壁用金属枠の取付け アンカー等の留付け間隔										
		<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート系下地及び鉄骨下地 ・ 450mm ・ 木下地 ・ 両端から逃げた位置から 450mm 以下 										
		自動ドア開閉装置、電動式シャッターの施工範囲										
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動ドア開閉装置の電源スイッチ以降の配線工事（配管、位置ボックスは除く） ・ 電動シャッターの操作スイッチ以降からシャッター制御盤までの配線工事（配管、位置ボックスは除く） ・ 建築工事標準図No.20 による 										

10章 舗装工事

1. 路床	(22.2.3)	盛土材料 (表 3.2.1) ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 路床安定処理用添加材料 ・						
	(22.2.5)	試験 CBR試験 ・ 行う ・ 行わない 締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない						
2. 路盤	(22.3.2)	路盤厚 ※10 cm ・ 図示						
	(22.3.3)	材料 ※ 再生クラッシュラン RC-40 ・ クラッシュラン C-40 ・ クラッシュラン鉄鋼スラグ CS-40						
	(22.3.5)	厚さ、締め固め度試験 ・ 行う ※ 行わない						
3. アスファルト舗装	(22.4.2)	舗装厚 ※ 5 cm						
	(22.4.4)	種類 (表層) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">地 域</th> <th style="width: 70%;">種 類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">※ 一般地域</td> <td> ※ 再生密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 再生細粒度アスファルト混合物 (13) ・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13) </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">・ 寒冷地域</td> <td> ・ 密粒度アスファルト混合物 (13F) ・ 細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F) </td> </tr> </tbody> </table>	地 域	種 類	※ 一般地域	※ 再生密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 再生細粒度アスファルト混合物 (13) ・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)	・ 寒冷地域	・ 密粒度アスファルト混合物 (13F) ・ 細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F)
地 域	種 類							
※ 一般地域	※ 再生密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 再生細粒度アスファルト混合物 (13) ・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)							
・ 寒冷地域	・ 密粒度アスファルト混合物 (13F) ・ 細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F)							
	(22.4.5)	シールコート ・ 行う ※ 行わない						
	(22.4.6)	切取り試験 ・ 行う ※ 行わない (軽易な場合) アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※ 行わない						